

FD 委員会 平成 26 年度活動総括

FD 委員会 委員長(副学長) 今野 弘

1. 平成 26 年度当初の計画 (簡潔に記載)

- 1) 教員の資質向上事業
- 2) 教員の業務環境の整備事業
- 3) 全学的な意識高揚事業

2. 平成 26 年度内に実施できたこと

1) 教員の資質向上事業

(1) 各種研修会

- ・新任教員説明会を 4 月 3 日(木)入学式後 14:00 から 15:30 まで実施
- ・「授業研究懇話会」を第 10 回教育改善シンポジウムと位置付けて、学長室、教務部と共催で、H27 年 2 月 19 日(木) 14:00~17:00 に実施。

テーマは、「休学退学の要因分析と対策」(学長室)、「クlicker(アクティブラーニング手法)の操作演習」(教務部)、「大学評価アンケート・授業評価アンケートの総括」(FD 委員会)

・FD/SD シンポジウムの開催(12月11日(木)16:00~17:15)

講師:北海道科学大学有澤副学長 演題:学部学科再編の検討および対文科省におけるキーポイント

(2) 「教員表彰」の継続

- ・教育部門の教員表彰(教七片山准教授/小川教授・共通セ高橋秀准教授)の実施
- ・研究/社会貢献部門の教員表彰(A 石井教授/CD 古川講師)の実施
- ・なお、研究・社会貢献部門については評価基準および方法を次年度に見直すこととした

(3) 「授業アンケート」の web 入力法の効果的実施と教育改善への施策

- ・従来のマークシート方式から web 入力に変更して実施した。
- ・前期の PC からの入力方式に加え、後期にはスマートフォンからの入力可能な環境を加えた
- ・なお、アンケート項目に「週の学習時間」の質問項目を追加した
- ・回答率が低下したので、次年度に改善のため検討する

(4) 「成績評価一覧」結果に基づく各部局による一層の教育改善への取組

- ・「成績評価一覧」を各部局、学科に配布し、そこで自己点検の上、改善計画を立てて年度末にその報告をする方式とすることで、学内全部局、学科の教育改善を促した。

(5) その他

- ・「授業アンケート」の結果、評価の低い(総合評価点<3、1の評価が>20%)科目は、H23,24,25年度にかけて科目、教員数とも減少傾向にあり、教育改善が認められた。

2) 教員の業務環境の整備事業

(1) 「大学評価アンケート」の解析と施設・環境の整備と関連させた施策

平成25年度アンケート結果(回収率75%)を解析し、結果をポータルサイトに公表するとともに、FD 委員会の総括をまとめるとともに自由記述の要望に関して部局長会議で各部局に整備を促した。

(2) 「良い授業の指針」の全学的実践と教員活動の自己点検評価

後期に約2ヶ月間(11/4~12/23)の授業公開において、「良い授業のための指針」に照らして参観教員がコメントし、各教員の授業改善に供した。なお FD 委員会としてのとりまとめは実施していない。

3) 全学的な意識高揚事業

- ・FD の各イベントは、恒例行事およびその意義が定着しつつあり、参加形態や開催日時を工夫することで相当程度(2/3およびそれ以上)の参加率が得られている。

3. 平成 26 年度内に実施出来なかったこと (その理由)

1) 教員表彰の連続受賞への対応 : 教員表彰は、3 年度を終了したので、次年度に検討。

2) 大学 HP に FD のバナー設置 : バナー設置はできなかった。

3) 「大学院アンケート」は平成25年度には実施してないため解析もしていない。H26年度に実施した結果を次年度に解析し、結果の公表、改善項目を整理して各専攻で対応したい。

4) 研究費や学内各種委員会の教員負担の軽減策までの検討は十分に対応できていない。次年度以降に研究費のより効率的な配分、各種委員会の編成など、部局長と協議を継続したい。

以上